



海外の緑化事情 フランス・パリ

花の都パリ。誰しも聞いたことがあるように、パリを象徴するようには、パリの観光ガイドの写真などは、街角のカフェに上手に花を写し込んで、綺麗な街を創造させます。では実際はどうなのでしょう？

「花の都に騙されて」といってエッセイがあります。実は花は花でも「華」、つまり「華やかな都パリ」というのが、正しい様です。マリウ・アントワネットの時代に象徴される、パリのエリゼ宮殿や、凱旋門、サイユモドのトッブを行くパリコレなど、華やかさが先行しているからでしょうね。

パリの街にはブローニュの森、ジャンセンヌの森と市内を東西に別けた大きな森があります。しかし、市内には建物が密集しており、ほとんど公園というものがありません。実はパリの街中には緑化が非常に少ないのです。実際には少ないどころか、緑化面積を計算する基準にもよるのをかみきれませんが、ヨーロッパ諸国の他の街から比べると、非常に少ないようです。また人口密度が高いのも、一人あたり緑化面積が狭く、建物が密集しているため、緑地を増やすことは困難です。目が行くのは、緑地でも、壁面にもなります。

フランス議会は2015年に、商業地域内にあらたに建造物を建てる際に

は、屋上を一部緑化もししくは太陽光発電のパネル設置をしなければならぬ法案を決議しました。環境保護の観点から緑化を全てにしたらどうかという一部は、一部の緑化もしますが、一部は太陽光パネルも置くというところにも留まるところです。そもそも太陽光を遮断する効果で、建物内の気温を下げる作用は、雨よりも、ヨーロッパ各地で盛んな、雨水を一旦緑化に含ませて、一度に大量の雨水が流れるのを防止する作用。その目的、野生の鳥がすみつき、生物多様性が期待される。この3つが義務化される。この3つが義務化される。この3つが義務化される。

詳しくは
緑化スタイルサイト
<http://ryokka.org>
↑ ↑ ↑ ↑
ご覧下さい。

スタッフ紹介

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

大日化成株式会社岡山工場技術部の吉村と申します。

大阪の真面に生まれ高校までで大阪で過ごし、今をきめく加計学園岡山理科大学を修了し大日化成に入社してから十余年が経ちます。

学生時代は学業に打ち込みながら熱中したのが回胴式遊技機、いわゆるパチスロです。パチスロはギャンブルと思われがちですが、正確には名前の通り遊戯機でありパチンコ業界にも入ります。私が悪友に誘われ賞金のが1万枚2万枚(20040万円相当)は当たり前前の4号機時代、各メーカーはとにかく出玉性能を追求します。獣王、アラジン、ミリオンゴッド、アルパイン代を全て支給日に使果たしてしまっ生活を繰り返していました。

しかしあまりにギャンブル性が高いため規制強化され出玉が抑えられた5号機の時代に入ります。5号機初期は過激な4号機に慣れた我々へビュウザーからは物足りな台ばかりで、私も一時期辞めて平穩な生活を送っていました。

おそらく5号機の暗黒時代で遊戯人口も減り、業界全体が廃れていくのは明らかでした。しかしパチスロメーカーの開発陣は規制の範囲内でどうにか出玉性能の優れた台を作り出すと試行錯誤を繰り返したはずですが、ここには規制の網の目をかいくぐるようなトリックがあったり、言葉遊びにも似た底理屈があったのかもしれません。



しかし開発者が知恵を振り絞った結果、4号機には及ばないものの規制内でユーザーが満足する機種を作り出しある程度人気を取り戻しているに至ります。私はとていつか、こうした絶望的な5号機規制を乗り越えた開発者たちに敬意を払いながら、時々楽しむようにしています。

このように業界があるところ、必ず規制や規格が存在し、それをクリアするためにメーカーの開発陣は知恵を絞り、何度も何度も同じような実験・試験を繰り返します。どんな製品にも開発者の努力や想いがあるのを忘れないようにしたいものです。

そして日々ユーザーの要望にお応えできるものづくり、更には驚かせるような製品作りを意識して日々精進しております。

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

映画で学ぶ 環境問題



タワーリング・インフェルノ
原題：The Towering Inferno
監督：ジョン・ギラミン
製作：アーウィン・アレン
出演者：ステイブ・マックイーン、ポール・ニューマン、ウィリアム・ホールデン
上映：165分
公開：1975年(日本)
製作国：アメリカ合衆国

今回は「環境」といっても「防災環境」をテーマに「タワーリング・インフェルノ」の記事にしようと思案中、偶然にも英国の24階建・高層マンション「グレンフェル・タワー」が猛火に包まれたニュースが飛び込んできました。この火災は、2017年6月14日未明にロンドン西部で発生し、死傷者100人以上という大惨事となりました。

その後、8月4日にはアラブ首長国連邦・ドバイで86階建マンションの火災も発生し、高層ビル火災は世界的な問題であることが印象づけました。

今やドバイの162階建のブルジュ・ハリファといひ、香港の118階建の環境貿易広場といひ、100階を超える建物は各地にあります。いざ火災や地震となるとどうなのでしょう？ 日本には、世界最高レベルの建築基準がありますので、火災や地震でも諸外国のような被害が出ないと思えますが、世界にも我が日本の技術を活かしてもらいたいところなのです。

さて、中高年なら誰でも知っている1974年の超大作「タワーリング・インフェルノ」。

実はワーナー・ブラザースと20世紀フォックスという「ライバル会社」

が共同で製作したこともあり、本来なら共演できないはずのポール・ニューマンとステイブ・マックイーンの2大スターが主役を演じて大ヒットを飛ばしました。ご存じない方のために簡単にあらすじをご紹介します。

ニューマン演じる設計士による、本日落成式という地上550メートル・138階建、世界最大の超高層ビル「グラス・タワー」ところが、建築会社の婿養子、パトリックが欲しさに経費をケチったため、細かいケーブルにより配電盤がショートします。

義父のウィリアム・ホールデンは、たかがボヤと軽んじて完成祝賀パーティを優先したこと、人知れず燃え広がる火災に、ついに現場はパニックに陥ります。派遣された消防隊長のマックイーンは奇策を打って火災を止めますが、犠牲者は多数にのぼったのです。

マックイーンがつぶやく「消防隊が対応出来るのは地上7階までだ」「高いビルを建てるなら、まず俺達に相談してからしてくれ」というセリフは、今こそ世界に広げたい名言です。

なお本作は、CGを使わず実写優先時代の作品だけあって、火災シーンは迫力満点。しかも脇役にフレッド・アステアやフェイ・ダナウェイ、ロバート・ワグナーにジェニファー・ジョーンズなど主役級がスラリ！これだけの作品は、もう2度と製作されないだろうという豪華さです。

さて、今回なぜ「防災環境」をテーマに

ネット上には現場での検証映像なども出ていますが、人気のホテルだけに気になる場所です。かくいう筆者も、一度ぐらいは屋上のインフィニティプールで泳いでみたいと思っていましたので、詳細をご存じの方は、ぜひ真実のほどをご一報ください！

いずれにせよ、火災も建築強度もどちらも「防災」上では無視できない問題ですので、話のタネとして本作品をご覧頂ければと思います。

建築関連の皆様なら真偽のほどをご存じかもしれませんが、ネット記事によると、このホテルを建設した業者が建てた、とある百貨店は1995年に突如崩壊し、多くの犠牲者を出したのだとか。しかも、その建設業者はすでに倒産しているうえ、そもその納期よりも随分早い納期で前倒し完成させたこと、このこと。マリナービルについて、日本の建設会社は軒並み、難易度が高すぎると辞退したこともあり、この業者で大丈夫だったのかと不安の声が高まっているそうです。いやいや、実態はどうなのでしょう。